

なののはな だより

NANOHANA
DAYORI

老健ちば

No. **113**

April 2025

長柄ケアセンター：桜の壁飾りをつくろう



INDEX

1
2

トレンドTOPIX 潮流
ニユースウォッチ

介護・認知症予防に対話AI活用
「話し相手」や健康把握

フォーカス「老健ちば」

〈理事会〉

〈管理者研修〉

3
4

〈特集 アンケートレポート〉

生産性向上推進体制加算の算定実態と
その効果について

5
6

〈研修会報告〉

自由気ままに
ペーパーブログ

〈理想的な

ライフワークバランスを目指して〉

四街道徳洲苑 主任介護福祉士 永山 俊弘



7

〈なののはなスマイル〉施設の笑顔紹介

● メディケアーさざなみ

● ふなばし光陽

〈老健ちばカレンダー〉
〈編集後記〉

<http://www.chiba-roken.jp/>

2025年4月18日 発行

● 発行者/一般社団法人 千葉県老人保健施設協会 ● 編集者/広報委員会

● 〒262-0042 千葉県千葉市花見川区花島町149-1 TEL:043-259-8435 FAX:043-259-8436

トレンドTOPIX 潮流

ちょうりゅう

介護の担い手不足深刻 2040年度には57万人 不足する！

ニ
ュ
ー
ス
ウ
オ
ツ
チ

介護・認知症予防に対話AI活用 「話し相手」や健康把握

介護の担い手不足は深刻で、2040年には約57万人の介護職が足りなくなると見込まれる（厚生労働省の推計より）。一人暮らしの高齢者も増加する見通しで、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、65歳以上の単身世帯は2020年に738万世帯で、団塊ジュニア世代が75歳以上となる2050年には1084万世帯になる。

こうした社会情勢を念頭に置き、音声による対話AI（人口知能）を福祉分野で活用しようと、自治体や企業などが実証を進めている。スマートフォンやタブレットの画面に表れたキャラクターが高齢者の話し相手となったり、離れて暮らす家族らに体調の変化を伝えたりといった取り組みだ。

【対話AI活用イメージ】

認知症予防

高齢化が進み認知症になる人の増加が予測される中、予防には会話が重要な役割を果たすことがわかっているが、話す機会が減りがちな高齢者が増えている。認知症予防には思い出を呼び起こすことも効果があるとされ、実

証に参加した高齢者は、「AIから昔の思い出を聞かれて記憶を一生懸命辿ったり、逆にこちらから質問したり。なかなか楽しいね」という声がある。

生きがい作り、困りごと解決

高齢者の生き生きとした暮らしを実現するため、AIと趣味について会話する中で地域の関連行事を紹介するなど、AIがその人の関心に応じたイベントやサービス、ボランティア活動を提案し参加を呼びかける。

負担軽減探る

対話AIで高齢者の体調や関心などを把握することで、ケアプランを作成するケアマネジャーが、高齢者の日々の様子がわかれば、継続的に見直しが必要なケアプラン作成業務を効率化できる可能性がある。また、家族らが高齢者の話しぐらから体調変化の兆しをいち早く察し、支援に繋げるといった効果も期待される。

だが、対話AIの導入や運用には一定の費用がかかり、様々な効果が期待できるとしても、個人や介護事業者らに

とって使用にあたってのハードルは低くない。

高齢者の生活の質の向上につながる期待されるが、必要な費用をどう賄うかが課題になる。

（読売新聞2025.2.28記事参考）



フォーカス 老健 ちば

理事会

令和7年1月27日(月)に京成ホテルミラマールにおいて理事会が行われた。理事2人と監事1名が出席した。内容は、公益社団法人全国老人保健施設協会令和6年支部長会の内容として、令和7年11月27日(木)・28日(金)に第36回全国介護老人保健施設大会in山口を行う予定、会場は下関市民会館を予定している。また令和8年10月22日(木)・23日(金)に第37回全国介護老人保健施設大会in栃木を行う予定。会場は栃木県宇都宮市ライトキューブ宇都宮を予定している。その他2議案を決議した。

最後に村上副会長から「千葉県老健協会の理事が減少しております。私達と共に千葉県老健協会を支える理事の方を募集します。皆様、どうぞ宜しくお願い致します。」と締めくくった。

管理者研修

理事会後、京成ホテルミラマール内の階を変え、管理者研修が行われた。参加施設14施設19名により管理者研修が開かれた。

村上副会長より日頃の皆様のご協力に感謝を伝え、開会の挨拶を終え、最初の講師は、千葉県健康福祉部高齢者福祉課の佐藤副課長より「千葉県における今後の介護保険施策」について話された。気になる点として令和7年度当初予算①介護事業所における業務改善支援事業(介護業務効率アップセンターの運営32,800千円。当初予算②介護支援専門員研修受講補助(新規)13,000千円。

介護現場におけるカスタマーハラスメントの実態として、利用者等から受けるハラスメントで一番多かったのが、暴言だった(直接的な言葉の暴言21.6%)。

次に千葉県健康福祉部高齢者事業課星野副課長と(株)医療経営研究所コンサルティング部の鈴木氏による医療型短期入所開設支援と実施概要の説明があり、「ご家族様の休息に老健施設のご協力を頂きたい」と語られた。



次に千葉県重症心身障害児(者)を守る会の淀縄事務局長(写真①)より医療型短期入所活用との現状と今後の事業要望について報告された。

淀縄事務局長より「私には31歳の障害のある子供がいます」と話された。その実体験から千葉県には医療型短期入所が特に少ない事を説明。

そんな中、2021年11月12日の千葉日報の記事で千葉市花見川区の(老健)晴山苑で医療型短期入所の受入れが始まった。吸引・胃ろう・気管切開・酸素までの医療的ケアに対応するという事で自宅近くに社会資源がある事はとても心強く、また災害時にも頼れると語られた。最後に課題として、千葉県には、医療的ケア対応グループホームや医療型短期入所等の福祉サービスが少なく、人口あたりのベッド数の少ない県として、全国でもワースト3位となっています。1位は、大阪、2位は岐阜、3位が千葉。今後、老健での受入れ拡大を期待していると語られた。

次に(老健)晴山苑武藤事務長代行(写真②)より「医療型短期入所の実施状況と今後の展望」について話された。



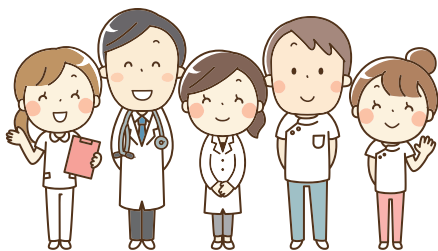
医療型短期入所事業を実施するにあたり、約1年程度前から実地研修として医療型短期入所を行っている施設に看介護を輪番で研修を行った。そのおかげで看介護の利用者受入れの合意形成や不安払拭を図れたと語る。初回利用者様は先程講義を行った淀縄様で最初は日帰りトライアルを行った。その際

は、ご家族同伴でケア全般と聞き取り調査を確認した。この確認をする事で施設側としても無理をせず、背伸びをしなない対応や姿勢を共有した。段階的に宿泊サービスへと移行して利用日数を増やしたとの事。今現在では、近隣の八千代市・佐倉市・四街道市からの利用者受入れを行っている。

今後の展望として、引続き利用ニーズに応えながら、老健の持つ医療・看護、介護、リハビリの機能を活かし、医療的ケアに質・量の向上と体制の整備をし、受入拡大に繋げたいと語る。

最後に千葉県医療的ケア児等支援センターぱらりすの医療的ケア児当番コーディネーターの景山様より「重症心身障害者および医療的ケア児者(副題)医療型短期入所受入のお願いについて話された。中でも障害者の子を持つ家族の実態調査自由記載には「突発的な事情で短期入所がとれない」「自分(母親)の入院治療は全く出来ない」「介護者が少しでも休める環境整備を望む」「兄弟の行事に参加出来ない」「車で2時間もかかる所に医療型短期入所している」「2ヶ月先の予約も取りづらい」「老健と特養で受け入れ可能にして欲しい」「母親がインフルエンザの時もマスクをつけて入浴させていて、何処かに頼りたい気持ちがある」など家族の苦痛な叫びが調査により伺えた。

今後も老健のニーズがどこまで検討出来るかが課題となる講義だった。



実際にアンケートでは、介護ソフトの導入により「請求作業が簡易化され残業が減った」「紙媒体から介護ソフトに移行して、職員の記録業務時間に変化が見られた」といった意見が見られている。

一方で見守り機器の導入については、転倒件数や夜間の巡回頻度の減少といった成果が挙げられているが、導入率が100%ではない事で職員の業務改善における期待値は大きくはないといった意見も挙げられている。

●ICT機器の導入で業務改善に繋がっているのか？

業務改善の成果は算定の要件ではないが、「利用者満足度」「総業務時間及び超過勤務時間」「年次有給休暇の取得状況」について変化があったかについては気になるところである。

アンケートでは「残業がほぼ0になり、有給が取りやすくなってきている」「業務効率は進んでいる」「利用者と関われる時間が増え、利用者満足度が上がった」といった、業務改善におけるいい結果が聞かれている。

その反面で「介護部以外では超過勤務時間や有給取得率に変化が見られているが、介護人材不足の問題が大きく介護部では超過勤務時間や有給取得に大きな変化は見られない」「介護ソフトにより業務負担は軽減したが、有給取得率の上昇に繋がっているのかと聞かれると疑問が残る」といったコメントもある。

上記の業務改善の状況以外で、「生産性向上推進体制加算」のメリットやデメリットについても意見を聞いた。「介護ソフトの導入のみでは利用者満足度を計りにくい」「加算算定にあたり導入コストが高すぎるうえに費用対効果が感じられない」「書類作成において時間の短縮は測れているが、コピペが増えて内容がない事がある為、確認は必要」

Q

機器の導入による業務の改善状況について

A

- ・ ほんのぼの導入により記録作成や書類作成の効率化だけではなく、わかりやすい情報の作成も行えている。
- ・ PCによる操作をスマートフォン・タブレットで一部行う事で業務の効率化が図れている。
- ・ 記録業務の短縮ができています。
- ・ 業務効率は進んでいると思うが、休暇の取得で目立った効果は今のところ現れていない。
- ・ 介護部以外ではさらに超過勤務が減ってきており、有給取得も進んでいる（介護人材不足）。

※回答意見一部抜粋

Q

加算算定におけるメリットとデメリットについて

A

- ・ 情報の共有先の明確化ができるようになった。
- ・ 見守り機器により利用者の事前の行動がよくわかるようになり、夜間の巡回の回数が減った。
- ・ PCやタブレットでの記録入力により、時間の短縮ができていますが、コピペが増えて内容がないことがある。
- ・ ICT機器の導入コストが費用的負担が大きい。

※回答意見一部抜粋

最後に

各施設の問題にも変化してくるが、ICT機器の導入は業務の改善や介護サービスの質の向上には少なからず影響していることは見て取れる。

しかしながら、人材不足や有給取得といった問題がこれらの機器によって改善している印象は薄く、中には「人材不足や有給取得率が改善しないのであれば、導入しても仕方がない」といった理由で機器の導入に踏み込めない施設も少なくはないだろう。

デメリットに注目してしまいがちな「生産性向上推進体制加算」だが、介護の負担軽減とサービスの質の向上は今後大きな課題となる為、月の報酬改定で「生産性向上推進体制加算」の捉え方がどの様に変化していくのか、新設される加算と共に注目していく必要がある。

特 集 アンケートレポート

生産性向上推進体制加算の算定実態とその効果について

昨年2024年の介護報酬改定において、介護サービス事業所における生産性向上の取り組みを評価する「生産性向上推進体制加算」が新設された。

厚生労働省は、人材不足が続く中で介護ロボットやICT等のテクノロジーの導入を通じて介護サービスの質を確保しつつ、介護職員の負担の軽減に資する生産性向上の取り組みを推進する事を加算の目的としている。

今回は生産性向上推進体制加算の算定が、どの程度の施設で算定されているのか。

また、算定している施設にはどのような変化が見られているのかを簡易的なアンケートを作成し、千葉県老人保健施設協会に所属している施設を対象に調査した。

「生産性向上推進体制加算」にはⅠとⅡがあるが、今回アンケートで「加算算定していると回答した施設の中でⅠを算定している施設はなく、全ての施設がⅡを算定している事がわかった。

回答施設で、加算型老健が一番回答率が高いが、その中で加算算定している施設の加算算定率は18%と低い。

施設区分毎に見ても千葉県内の老健で加算型老健の比率が高い事が予想されるが、生産性向上推進体制加算の算定において、加算算定している施設は多くはない事が予想される。

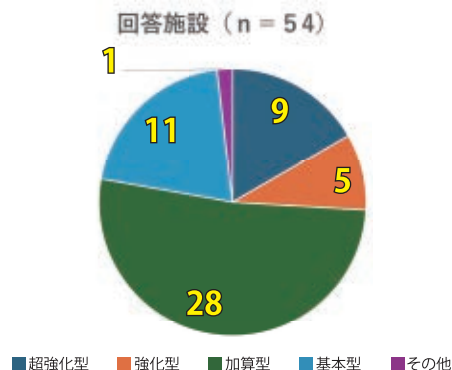
一方超強化型老健は回答母数は少ないが、加算算定率が75%とほとんどの施設が加算算定している事が分かる。

●加算算定要件を満たす為に導入されている機器について

加算算定にあたり導入されているICT機器の割合は「介護記録ソフトウェアやスマートフォン等の介護記録作成の効率化に資するICT機器（以下介護ソフト）」の導入率が一番高く、次いで「利用者の離床状態等を感知し、職員に通知できる見守り機器（以下見守り機器）」「インカム等の職員間の連絡調整の迅速化に資するICT機器（以下インカム）」となっている。

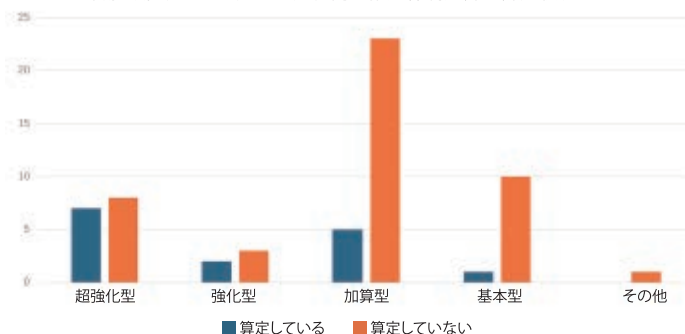
導入コストを考えると理由としては介護記録ソフトの導入が一番コストが掛からない事が挙げられるが、何より業務改善の効果が3種類の機器の中で一番感じやすい物が「介護ソフト」にあたる。

資料1



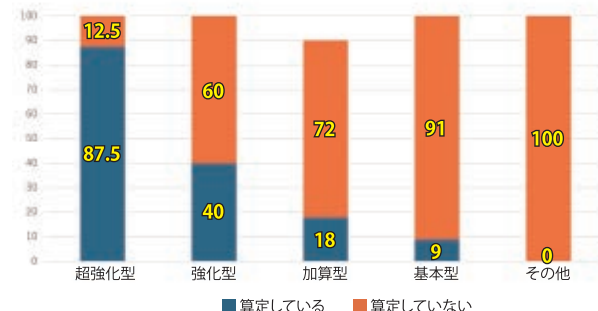
資料2

各施設区分ごとに見た生産性向上推進体制加算の算定状況



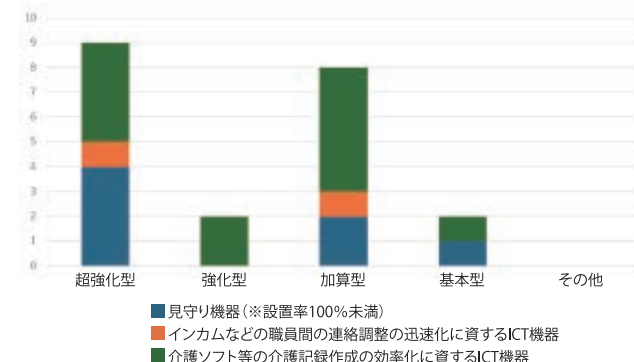
資料3

施設区分ごとに見た生産性向上推進体制加算Ⅱの算定率



資料4

各区分施設での導入機器の内訳



研・修・会・報・告

中堅職員研修会

令和6年12月23日ホテルポートプラザにて、中堅職員研修会が開催されました。27施設から37名の参加がありました。

株式会社チームウル遠藤恵子氏を講師に迎え、「介護老人保健施設における中堅職員が身につけたいスキルと対応」をテーマに講義と演習が行われました。

講義開始時に「自分の考えをいったん置いておき、部下一人ひとりに関心を持ち、その思考や行動パターン、立ち止まってしまふ場面を理解することに目を向ける。そんな視点を持つことで、より効果的な舵取りが可能になります。本研修では、部下の個性や状況を見極めながら、チーム全体の力を引き出すためのスキルと心構えを学びます。」とゴールが設定されました。

言いたいことを伝える手法「アサーション」を学ぶ場面では、自己表現のあり方の



3タイプについて説明がありました。1つ目はノン・アサーティブ、自分のことよりも他人を優先し自分の事は後回し。2つ目はアサーティブ、自分のこともまず考えるが他者への配慮も忘れない。3つ目はアグレッシブ、自分のことだけ考えて、他人のことなどお構いなし。

行き違いの無いコミュニケーションのために、人の話をきちんと聴ける、自分の意見をしっかりと伝える、アサーションの手法の大切さを学びました。

リスクマネジメント研修会

令和7年2月28日ホテルポートプラザにて、リスクマネジメント研修会が開催されました。17施設から23名の参加がありました。

介護・福祉系弁護士法人おかげさま代表弁護士 外岡潤氏を講師に迎え、「事故発生時の対応マニュアルについて」「どうする、どうやるBCP訓練と研修」をテーマに講義が行われました。

講義の冒頭では、事故発生時には初動対応を間違えないことが最重要。法的に正しい対応をすれば、大きく道を踏み外すこともないとのコメントがありました。

事故後の救命措置は施設側の義務。他人ごとになってはいけません。家族には迅速、正確、誠実に対応すべし、そのために事故対応のマニュアルを整備する。

事故が起きることは致し方ないが、開き

直つてはならない。

事故後の対応は、現場の士気にかかわるとお話がありました。

裁判例についてもお話がありました。老健の療養室内転倒事例に対し、判決文には転倒して生命や身体に危険がおよぶ様な重大な傷害を負う可能性があることを十分「予見することができた」というべきである、との記載がありました。

裁判では証拠が全て。計画書、介護記録、報告書、メモ書き、音声等、あらゆる記録が裁判所で検討されている。相手との通話を含む会話を録音する。コンプライアンスは自分にとっても有利に使う等、利用者側の権利意識の高揚に対し、施設が立てるべき対策について学びました。

グループワークでは、参加者が自施設の、事故対策マニュアル、BCPの資料を持ち込み、活発な意見交換がありました。



新車・中古車販売 新車の福祉車両はもちろん 中古福祉車両もご用意しております！ ハイブリッド車もご用意 中古車もご用意	買取 大切なお車買取いたします。 参考見積りだけでも対応いたします。 車イス移動車、スロープタイプ、 その他福祉車両お待ちしております。	車検・点検 钣金・修理 一般の車はもとろん福祉車両の車検 点検、钣金、修理も行っております。 福祉車両ならではのフロア部分や サイドステップ、車イス固定装置などの 福祉部のメンテナンスを行います。 また、お車をお預かりする際は 福祉車両の代車をお出しいたします。
リース 法人様向けに「家族用メンテナンス」 福祉車両代車」をふくんだ福祉車両に 特化したリースをご用意しています。 その他、ファイナンスリース、保険付き なども承っております。	レンタカー 様々な車種の福祉車両レンタカーを ご用意しています。 1ヶ月以上の長期貸出もできます。	保険 自動車保険をはじめ、 火災・盗難・衝突・自然災害 各種お取り扱いいたします。 補償・保険料をより一層、 お客様の期待と信頼にお応えします。

インジニアス 株式会社

お気軽に
お問い合わせください！

☎ 048-263-9180

FAX 048-263-3452

〒333-0848 埼玉県川口市芝下1-14-23

理想的な

ライフワークバランスを目指して

四街道徳洲苑 主任介護福祉士 永山 俊弘

ライフワークバランスは現代社会において非常に重要なテーマです。特に、仕事とプライベートの両立を図ることは、心身の健康や幸福感に大きく寄与します。そんな中、私はサーフィンを趣味として行っています。心身のリフレッシュやストレス発散に最適なアクティビティとして注目を集めています。

サーフィンは、海の波に乗ることで得られる爽快感や達成感が大きな魅力です。波に乗る瞬間は、日常の喧騒を忘れさせてくれます。この特別な体験は、仕事のストレスやプレッシャーから解放される時間を提供してくれます。サーフィンをすることで、自然との一体感を感じることができ、心の平穏を保つ手助けとなります。

また、サーフィンは身体的な健康にも寄与します。海での運動は全身を使うため、筋力や柔軟性の向上につながります。さらに、日光を浴びることでビタミンDを生成し、免疫力を高める効果も期待できます。健康的な身体は、仕事のパフォーマンス向上にもつなが

り、結果的にライフワークバランスを整える一助となります。

サーフィンはまた、コミュニティを形成する要素も持っています。サーフィンを通じて出会った仲間たちとの絆は、仕事の人間関係とは異なる、自由で開放的なものとなります。このような仲間との交流は、心の支えやリフレッシュの源となり、ストレスの軽減に寄与します。

結論として、サーフィンは私の中でライフワークバランスを整えるための有効な手段です。心身のリフレッシュ、健康の向上、コミュニティ形成、自己成長など、多くのメリットを享受できるこのアクティビティを通じて、より充実した生活を送ることができると感じています。

これからも良い波に乗り、良い時間を過ごし、良い仕事に繋がっていききたいと思っています。



災害等対策委員会活動報告

令和7年1月22日、令和6年度第2回災害等対策委員会が開催されました。

前半は令和7年度の事業計画について、会議を行いました。

後半は、国立病院機構本部DMAT事務局災害医療課 上吉原良美氏を講師に迎え、「老健施設における災害対策」能登半島地震対応を踏まえて」をテーマに講義がありました。

災害は「忘れたころにやってくる」ではなく、最近では忘れる前にやってきます。災害大国日本に住む以上、覚悟してくださいと冒頭にお話がありました。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、1月3日に輪島市への派遣命令があり、1月4日から輪島市役所に入り、輪島市保健医療福祉本部を立ち上げ、常駐支援をした上吉原氏の報告は、各委員が大変重く受け止めました。

令和7年度の事業に、会員施設向けの講義を開催し、貴重なお話が共有されると、期待を大きくしています。



BCP・日常業務に業務用無線がお役に立ちます

災害時の
避難誘導に

緊急連絡
手段として

簡単操作で
一斉通話

業務用無線機・インカム・トランシーバー販売

関東電子株式会社

〒260-0022 千葉市中央区神明町5-15

0120-456-720

お気軽に
お問い合わせ
ください！



明るく!

元気!

施設の笑顔をご紹介します!



■ メディケアーさざなみ

アクアラインと東京湾を望む風光明媚な地に設立以降25年が過ぎ、近年はアウトレットパークや大型倉庫型店舗などが建ち、大きく様変わりしました。私達は、利用者様、ご家族、近隣地域の方々の喜ばれる姿が一番の励みになっており、日々研鑽を続けています。

住 所: 木更津市中島2366-1
電 話: 0438-40-1605
開設日: 平成12年4月1日
入 所: 100名 (ショートステイ含む)
通 所: 50名



利用者、職員も自分らしく楽しい日々を過ごせるよう、愛・感謝溢れる、心躍る触れ合いを大切にしています。

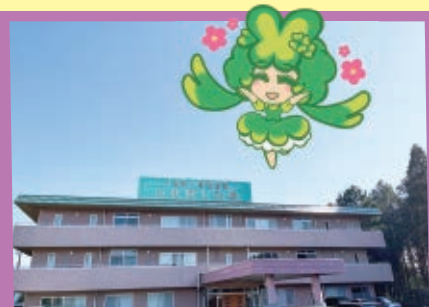
作業療法士
田村 友希

■ ふなばし光陽

当施設はふなばしアンデルセン公園近くに位置し、介護保険制度と同時期に開設し共に歩んできました。法人理念は「看る人も看られる人も幸せに医療と福祉のサービス施設」です。YouTubeで毎日情報発信中です!

住 所: 船橋市豊富町644-12
電 話: 047-456-2661
開設日: 平成12年6月5日
入 所: 70名
通 所: 30名

ご家族、ご利用者の
思いに寄り添いながら
ふさわしい療養生活が送れるよう
多職種協働で支援しています。



事務課長
小野 浩史



老健ちばカレンダー

寒暖の差の激しい日々が続いておりましたが、皆様体調はいかがでしょうか?

研修委員会において令和7年度の研修についての話し合いが行われました。

今年も皆さまの役に立つ研修をと研修委員一同頑張っております。～皆様の参加をお待ちしてます!～

● 編集後記

- 物価の高騰で施設も食材費やガソリン代など影響が大きいですね。私生活も値上げは大変ですが、お菓子など値段は変わらず中身が小さくなっていくのも寂しいですね…。(白石)
- 三寒四温を繰り返しやっと春本番。新年度がスタートしました。今回のアンケートやトピックスでも紹介しておりますが、介護現場もICT化、介護ロボットの導入が推奨されております。職員の負担軽減と同時に利用者の満足度もアップできる職場作りができればいいなあと思います。そして私の頭もアップデートできればいいのですが…。(坂本)
- 新しい年度が始まります。少し前に昨年度の目標を立てたと思ったのですが…。昨年度の振り返りをしながら、新年度の目標も立てていきます。昨年度はバタバタと覚える事が多く、失敗も多い年でした。新年度も成功より失敗が多い年になるでしょう。そんな中でも少しでも皆様の役に立てるように日々精進していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。(松戸)

- 春ですね。すこしやさしい季節はあっという間です。と言うか、寒い! 暑い! しんどい事ばかりにとらわれない様に、すごしたいなと思っています。(若林)
- 昨年度頑張っていた資格勉強が実を結び、今年度はそれを活かして色々やりたいなと思っている今日この頃です。職場でも、この4月からリハ職員が4年ぶりに増え、また新しい風を感じながら、求められる方向性を見定め、みんなで1歩1歩着実にやっていきたいと思えます。(古田)
- 今回の4月号では、理事会と管理者研修を担当しました。理事が2人しかいない理事会だったので、とても寂しさを感じました。理事になってくれる方が増えるといいのですが…。(福田)

